

施設整備の基本方針について

1 第5回検討委員会における目的

- 第3回及び第4回検討委員会での議論を受け修正した施設整備基本方針(素案)をもとに、検討を行う。

ごみ処理施設の整備を行うにあたって、施設整備の基本的な方針を定める必要があります。

以下に、第3回及び第4回検討委員会が出された意見等をもとに、基本方針の素案を示します。

2 基本方針(案)

ごみは市民一人ひとりが排出することから、クリーンセンターの建て替えは、市民一人ひとりの課題です。また、近年クリーンセンターは、ごみ処理だけでなく、まちづくりの中で重要な役割を担うようになりました。新たに整備するクリーンセンター(以下、「新施設」という。)は、宝塚市の文化的・歴史的な特徴等の地域特性を活かした複合的な施設とし、宝塚市民や施設で働く方が誇りと親しみを持てる施設とする必要があります。本市は、この認識に基づき、市民参加方式による「宝塚市新ごみ処理施設整備基本構想検討委員会」を設立し、以下の基本方針を取りまとめました。

【参考にさせていただいた主なご意見】

- 『宝塚市の街づくりとしてどんな宝塚にしていくかということで、クリーンセンターの問題だけではなく、色々な街づくりの構想の中での問題としても考えていく必要が有るのではないか』(第4回・高橋委員)
- 『文化的・歴史的な経緯といったものも「歴史的・文化的な特徴を十分に表すことができるもの」というふうに』(第4回・渡辺委員)
- 『「地域特性を活かした」という言葉も入れておいてはどうかと思います。』(第4回・中野委員)
- 『相乗効果をいかに狙うか』『やはり集合体でないと、花だけだったら花に興味が無いと来ないとか、別の物でもそれに興味が無かったら来ないとかになるので、やはり集合体にしないと。』(第4回中谷委員)
- 『複合的な目的を持った施設』(第4回・中野委員)
- 『そこで働く方が誇りを持って「宝塚のクリーンセンターに勤めている」という気持ちが持てるような環境づくりも大切』(第4回・中谷委員)
- 『どういう付帯機能を持たせれば宝塚市民として誇りを持てるのか』(第4回・中野委員)
- 『市民に親しまれる施設』『親しみの持てるクリーンセンター』(第4回・多数の委員)

方針 1 : 安全・安心で環境保全に優れた施設

近年のごみ処理施設は、環境保全技術の発展により、排ガス、悪臭、騒音、振動、排水等による影響を小さく抑えることができ、環境との調和がとれたものとなりました。

新施設でも、地球環境との調和に配慮し、資源の有効利用とエネルギー効率を含めた総合的な見地から最良の環境保全技術を導入します。また、安全性や危機管理についても万全の配慮を行い、地域や作業環境にとって安全・安心が確保された施設とします。

【参考になされた主なご意見】

- 『例えば「安全」というのは先ほどから出てきていますし、当然第一にするべきだと思う。』（第3回・黒坂委員）
- 『安心・安全をトップに持ってきたらどうでしょう。』（第3回・中野委員）

方針 2 : 安定した稼働ができ、災害に強い施設

新施設は、宝塚市唯一のごみ処理施設です。不具合等で処理が止まってしまい、公衆衛生への影響が多大にならないよう、安定した処理を持続的に行う必要があります。

新施設は、導入技術の安定性を備えた施設とし、ごみ量・質による変動にも対応でき、長期間にわたり安定した稼働を持続的に行うことができる施設とします。また、耐久性を備えた施設とし、災害時にも継続して処理を行うことができるとともに、防災拠点としてエネルギー供給や避難所等の機能を有した施設とします。

【参考になされた主なご意見】

- 『あくまで安定して動くものを。』『まずは安定して、特に壊れることなく、壊れるところが出て、ここならこうしたら良いとある程度分かっているものにしておいた方が良いと思います。』（第4回・渡辺委員）
- 『巨大地震が起こるかもしれないので、この宝塚市の中に災害拠点として、万一の場合にエネルギーも自給できるし皆が集まれるような施設というような複合的な目的を持った方がよい。』（第3回・中野委員）
- 『震災の時には集える広い場所があるとよいと思います。』（第3回・道上委員）

方針 3 : 循環型の街づくりに寄与する施設

ごみ処理施設は、市民が生活しやすい街を支えるための施設です。今後も生活しやすい街を維持するためには、循環型の街づくりに寄与できる施設とすることが重要です。

新施設は、ごみに含まれる資源物は可能な限り回収し、ごみの持つ熱エネルギーを効率的に回収し有効利用するとともに、自然エネルギーを有効利用した創エネルギーシステムや省エネルギーシステムを導入することで、循環型の街づくりに寄与する施設とします。また、施設を利用した環境教育を通して、市民の協力による循環型の街づくりを促進する施設とします。

【参考にさせていただいた主なご意見】

- 『資源がなくなっていくのでこれから循環的な街を作らざるを得ない状況の中で市民としてどういう役割を果たしましょう』(第3回・中野委員)
- 『せっかく出ているエネルギーを無駄にしないで使えるような考え方を少ししていかなければいけないのではないのでしょうか。』(第4回・道上委員)
- 『こういう公共施設ができるだけ自然エネルギーを使った発電施設を付けたらどうかと思います。』(第4回・安田委員)
- エネルギーとか環境、地域、その辺を考えた考え方が有るのではないか。』(第4回・田中委員)
- 『「生活しやすいような街を支えるための施設。そしてその未来のためには循環型であることが大事である」というような表現の方が良いと思います。』『生活するの方が大事なのだという表現に描き直しませんか。』(第4回・渡辺委員)

方針4：経済性・効率性に優れた施設

ごみ処理施設は、市民や国民の税金により建設・運営されるものです。導入技術や設備は費用対効果に優れたものとする必要があります。また、ごみ処理システムは、市民の協力の上に成り立つものです。人口動態等の社会的な変化がある中でも、ごみ出しの負担が小さく、分別排出等で協力を得られる施設とする必要があります。

新施設は、施設の計画・設計・建設から運営・維持管理・改修、収集・運搬、また市民の協力までを含めたごみ処理システム全体で、常に経済性や効率性に配慮し、ライフサイクルコストを縮減することができる施設とします。

【参考にさせていただいた主なご意見】

- 『経済性を入れているところも多い。』(第3回・黒坂委員)
- 『これから新たに作る設備もまたその先を考えて改修できるような考え方で設計をしておかないといけない。』(第3回・安田委員)
- 『市民の生活はこうなるとか、分別が凄く大変になるかもしれませんし、こういう理想は大変素晴らしいのですが、その結果どうなるか。』(第3回・緋本委員)
- 『経済的である必要はあります。』(第4回・渡辺委員)
- 『「やさしさ」といいますか「ごみが出しやすい」という、宝塚市も山が多くて高齢化が進んでいる限界的な地域も多いということなので、「ごみが出しやすい」「安心して暮らせる」といったそういうアピールを含めていただければと思う。』(第3回・緋本委員)
- 『高齢の人口を入れるというその「人口動態、社会的な変化に対応した」というところはどこかに必要でしょうね。』(第4回・中野委員)
- 『(排ガス等で周辺環境への影響が大きかった地域とは異なり、)ずっと良い関係できていることを強調できる面で方針4のこのタイトルはいいと思います。』

方針5：環境学習・理科学習の要となり、市民に親しまれる施設

ごみ処理施設は、ごみと衛生という身近な問題をテーマとした環境学習に最適な施設です。また、物が燃える仕組みや、電気をつくる仕組みなど、理科学習の一環になる要素が集約しています。

新施設は、自然現象や、ごみ問題をはじめとした環境問題の「なぜ」を、体験しながら考えるきっかけとなる施設とします。また、環境学習に関する活動拠点としての機能を備え、子どもから大人まで幅広い年代の方々が集い、楽しく交流できる施設とし、市民に親しまれ、コミュニティ形成を促進する施設とします。

【参考にさせていただいた主なご意見】

- 『理科教育が地域からどんどん無くなってきた現代、その1つの要にこれからなっていく。』（第3回・渡辺委員）
- 『例えば太陽光発電の施設を造るとかして、エネルギーを勉強して貰えるような施設にしたら良いのではないかと。』（第4回・安田委員）
- 『ここに来れば子供も高齢者の方たちもみんな集える場所があるとよい。』（第3回・道上委員）
- 『市民も何かそれを楽しめるという場所が欲しい。』（第3回・道上委員）
- 『市民が楽しめるとか、市民がそこに集まれるとか、そういう形にしないと発展はしないかと思えます。』（第4回・高橋委員）

方針6：「花のまち・宝塚」に相応しい景観を形成し、市民に親しまれる施設

宝塚市は「花のまち・宝塚」と呼ばれる美しい景観を誇る街です。新施設が市内のどの場所に立地しても、「花のまち・宝塚」に相応しい景観を形成する要となる施設とすることが重要です。

新施設は、エネルギーを有効利用し、1年を通して花と緑の豊かな景観を市民参加型で作る施設とし、市民が花を育てる喜びを知ることができ、また、訪れた人が憩える場所とします。「ごみから花と緑を作る」という美しい資源循環を市民一体となって作るシンボルとして、市民に親しまれる施設とします。

【参考にさせていただいた主なご意見】

- 『花の道に象徴されるように、やはり宝塚は花の街なのかなと思います。』（第4回・緋本委員）
- 『作る喜びを知るボランティアと言うか、子供から大人まで色々な形での参加型ということも考えていければ良いのではないかと思います。』（第4回・道上委員）
- 『市民が憩える場所、楽しい場所を造っていきたいなと思っております。』（第4回・道上委員）
- 『、温水を使って育つ花ができれば、冬の花のない時期に花が育つなと思います。』『冬に素晴らしい花園がセンターに有ると人が足を運んでくれるかなど。』（第4回・中谷委員）
- 『場所を特定するような表現にならないように方針6を少し書き換えるのはどうでしょうか。』（第4回・渡辺委員）